

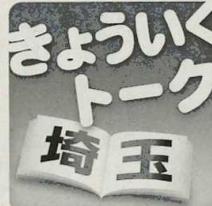
朝日新聞埼玉版

2015年7月7日掲載記事

障害児支援 可能性信じて



小冊子「あかりの想い」100年後のあなたへ」と川岸さん(右)と古坂さん



—障害も個性のうち、
と積極的にとらえる動きが
広がっています。

川岸「支援は、一人の人間として認めることから始まります。例えば、知的レベルは高いのに、集団の中で1番にならないとパニックを起こす子や、飛び抜けた記憶力で何年分のカレンダーを覚えていて、生年月日を言えどその曜日を教えてくれる子もいます。驚きと尊敬の連続です」

コミュニケーションが苦手、じっと座つていられない、言葉が出ないなど発達障害や知的障害のある子らを支援するNPO法人あかり（久喜市）。代表理事の川岸恵子さん（59）と統括責任者の古坂義通さん（71）が2006年に2人で立ち上げ、活動は10年目に入った。県の推計では、発達障害の症状を示す15歳未満は県内に6万人余。広がる支援への思いを聞いた。

NPO法人あかり 川岸恵子さん（59）・古坂義通さん（71）に聞く

NPO法人あかり 久喜特別支援学校のPTA会長などを務めた川岸さんと学童クラブでボランティアをしていた古坂さんが9年前に設立。職員は非常勤を含め約300人に増え、18事業所を久喜周辺の3市2町で運営する。7月からは県の委託を受け、小学3年生までの発達障害児に個別対応する利根地域療育センターも運営している。問い合わせは、あかり（0480・24・2060）。

進路自ら選択 仕事通じ一人立ち

—古坂「障害者の親は子のい雰囲気になる」と言われていました。私自身も人生の価値観が変わりました。むしろ彼は幸せを与えてくれるのだと実感しました

—川岸「私は障害がある長男を育てましたが、障害を抱えることで不幸になるとは思っていないんです。息子は23歳の時、くも膜下出血で亡くなりました。彼の5年半勤めた会社では、彼のおかげで社内が『やさしい』

—古坂「私たちの就労支援の事業所も運営していま

—川岸「小冊子には『ダメと言わない』という項目があります。あかりでは職員

—古坂「障害者の親は子のい雰囲気になります。昨年からは県の最低賃金を保証する事業所もつくりました。障害があるから『これしかできない』といふのではなく、自身で進む道を選択してもらう。彼らの可能性を信じていれば、仕事を通じ一人の社会人と障害を受容する厳しい場面がある。川岸さんも経験し、たいへんだったう

—あかりの指針を記した小冊子「あかりの想い100年後のあなたへ」を

—あかりの想い100年後のあなたへ」と川岸さん(右)と古坂さん

6月に出しました。

川岸「支援の仕事は100%、人と人の関わりで

す。機械がとつて代わること

ができない。決してなく

ならない仕事です。100

年後も、互いに寄り添つて

生きていきたいと考えまし

た。職員にとつてはバイブルのよ

うなものです」

古坂「障害のある人も夢

や希望に満ちた人生を全

ての社会を目標に掲

げました。人としての生き

方にとも通じるので、あるお

寺は『檀家の方に読ん

でもらいたい』と、小冊子

を書庫に置いてくれまし

た」

—あかりの想い100年後のあなたへ」と川岸さん(右)と古坂さん